

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 57 号

平成21年2月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
水産学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

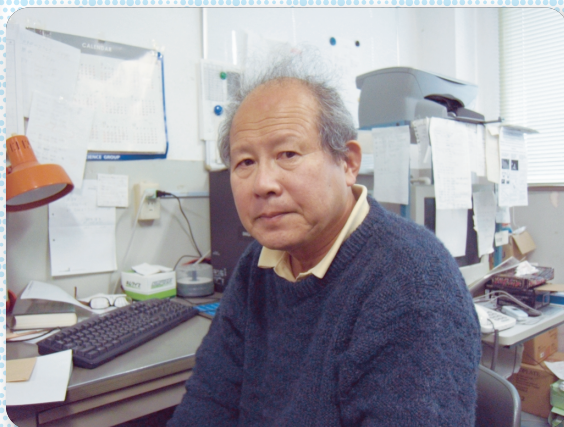
TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次	P.1	平野先生傘寿の祝い・就職ガイダンス	P.5
山森先生「三陸生活33年間の思い出」	P.2	潜水部OB会・第36回漁り火祭	P.6
九州地区親睦会	P.3	「水産学部卒後30年の集い」のご案内	P.7
食品化学研究室同窓会	P.4	お知らせ・見玉先生、山森先生退職パーティー	P.8

看板



小河 久朗 教授



見玉 正昭 教授



山森 邦夫 教授



水産学部を背負ってこられた先生方

<http://kitasato-sansuikai.jp/> E-mail information@kitasato-sansuikai.jp

三陸という地はどんなところか分からないが、当時もすでに幻の魚といわれていたイワナやヤマメがいくらか釣れると聞いた。一方、東京では朝夕のラッシュ時の通勤電車はすし詰めの状態で通勤地獄といわれていた。それで東京大学農学部を退職し、北里大学水産学部へ赴任した。昭和51年3月のことで、丁度、1回生の卒業式に間に合った。あれから33年が経過し、私は定年退職する年齢になった。

当時は出来たばかりの学部で、水産増殖学科には下村敏正、藤野和男、橘高二郎、小林正典各教授、鈴木敬二、井田斎、渡邊翼、山森邦夫（私）各助教、室伏誠、厚田静男各助手、水産食品学科には、土屋靖彦、松浦文雄、太田静行、佐藤良裕各教授、佐藤美和、川内浩司、児玉正昭、野村節三各助教授、日下兵衛、佐藤実、緒方武比古各助手がおられ、松浦教授が学部長を兼任されていた。

私は魚類生理学講座に所属した。研究の内容は生理学と遺伝学であって講座主任である藤野教授と室伏助手が遺伝学を、私は生理学を担当した。約20名の卒業生の指導を生理学と遺伝学とで分け合った。室伏助手は昭和53年に日大文学部に転勤された。後任として鈴木美枝さんが技術職員として着



「写真1」

任したが、1年後に三島市にある国立遺伝研に転勤された。昭和55年に荒井克俊助手が着任した。荒井氏は昭和59年に講師に昇任され、平成2年に広島大学助教授に栄転された。荒井氏はその後、母校の北大に戻られた教授として活躍されている。藤野教授は荒井氏の後任として奥村誠一助手を採用した。奥村氏は藤野教授の一手で卒業、大学院修士課程、博士課程を修業した藤野教授の愛弟子である。藤野教授は翌平成3年3月に定年退職され、私は講座主任を引き継いだ。平成5年に東北水産の浅野昌充氏を助教授に迎えた。浅野助教授は平成9年に新設された宮城県立看護大学に教授として栄転されたので、後任として天野勝文氏を講師に迎えた。天野氏は平成12年に助教授に昇任され、平成20年に講師に昇任された。奥村助手は平成8年に講師に昇任され、平成16年には准教授に昇任された。天野氏も奥村氏も卒業指導の他、多くの修士を育て、且つ博士を育てた経験も持つ優れた教員である。

水産学部の教職員住宅として最初にできた崎浜の住宅と2番目にできた浦浜の杉下住宅があった。私は杉下住宅に入居した。家族は家内と6歳の娘である。4年後に息子が生まれた。杉下住宅は大学に近いので、帰宅後に再度大学に行くことも億劫ではない。気になることがあると夕食後に大学に行くことも再三あった。近いので学生たちも良く遊びに来てくれた。私の担当する卒業生だけでなく、藤野先生担当の卒業生も良く来てくれた。狭い部屋に重なるように詰めあつて食つたり呑んだりしながら議論した。卒業でうまく行ったことか、逆に悩んでいることか、卒業関連の話が多かつた。卒業テーマがいつも皆の頭の片隅から離れないことの証拠だつた。皆、自分には学生たちが東京から土産を持ってきた。ケンタッキー・フライド・チキ



「写真2」

ンの存在を知つたのも学生の土産からである。越喜来漁港が近いので、夕食後に釣りに行き、釣れたクロソイやメバルを肴に晩酌を楽しむことも多かつた。

子供が大きくなつて杉下住宅が手狭に感じられるようになった頃、平野礼次郎学部長から大船渡に家族向け住宅を新設する話があり、新住宅建設委員会委員長を仰せつかつた。当初は多くの教員も単身赴任であつたが、家族連れの教員も徐々に増えつつあつた。僻地の大学に優秀な教員を呼び込むには、「将を射んと欲すれば、まず馬を射よ」が肝心で、すなわち「奥方に気に入ってもらえる住宅を用意すれば、優秀な教員に来てもらえる」との深謀遠慮が平野学部長の真意であつた。それで便利で広く夢のある住宅を計画した。田舎で土地は広いのだから高層住宅は止め、大船渡市赤崎町字諏訪前に500坪の土地を借り、平成6年冬に諏訪前住宅が完成した。4LDKの2階建て住宅が4軒連なり、これが2棟で、計8所帯分の住宅である「写真1」。各軒

に2台分の駐車場を備えた。諏訪前地区は大船渡市が水田を住宅地に造成したもので、当初は周囲に何もなかつた。ところがその後、DIYの「SUNDAAY」や食品スーパーの「新鮮館」などができて大船渡市の中で最も発展著しい地区になつた。買物に来る学生も多い。諏訪前住宅は「新鮮館」や「SUNDAAY」の裏側に位置し、盛川に面しているのだからやすい。

溪流釣りに惹かれて三陸に来た私である。三陸では車から降りた場所が溪流釣り場になる。リアス式地形というのは、山地の中腹までが海に沈み、山地の上流部のみが海から突き出ているといつても良い地形である。したがって東京では電車やバスを乗り継いでさらに数時間歩かないとたどり着けない標高1000mクラスの地形が、足元に転がっているようなものである。しかも人口が少なく、水質汚染も少ない環境なので、都会では幻の魚がここでは全く幻でない。川にはよく行った。イワナ釣りが主で、ひとたび釣りをすると、その後は同じ場所ではしばらく釣れない。そこで私は同じ場所を釣る場合には最低1週間以上間をおいてからにした。それでもまったく釣りにならないときは、大抵先行者がいたり、釣りをしつららしい新しい足跡が見つかりました。だから、釣りに行く場所を何ヶ所も用意している。このように間をおいても数十年も同じ溪流で釣りをしているとは記憶してしまふ。下流から上流までの水中の数々の石の配置、魚の潜む場所、大物が釣れる場所など、経験によつていろいろなことを知り、坊主（1尾も釣れないこと）で帰ることはまずない。尺（30cm）を超える大きさの溪流魚を一尺もの一というが、「尺もの」の魚拓は何度も作つた。しかし三陸では溪流魚が幻の魚で無いこともあり、当初頻繁であつた釣行も徐々に減り、最近は何年か程度になつた。また釣りの時間も朝1

時間とか、夕方1時間とか、短時間で切り上げている。さらに自分で釣るよ
り他人を案内するほうが好きになつて
きた。最近、体験実習と称して、学生
に実技を教える科目ができ、私は「魚
から学ぶ」と題して、学生に魚釣りを
指導している。平成19年7月に「イワ
ナ釣り」を開講したところ、参加者は
女子学生9名、男子学生2名の計11名
でいずれも初心者だった。まず土曜日
午後にはイワナ釣りについて講義をし、
翌日曜日に地元三陸町内の溪流に入り、
釣りを実地指導した。その結果、午前
7時集合の第1班5名の釣果は6尾、
午前11時集合の第2班6名の釣果は15
尾といずれも大漁で、しかも第2班の
女子学生は全長39cmの大イワナを釣り
上げた「写真2」。全員にイワナ釣りを
体験させることができた大変良かった。
39cmのイワナはめったに出ない大物で
ある。三陸は現在も昔と変わらず溪流
魚の宝庫であることを実感した。海で
は夏の小サバ・小アジ釣りが楽しい。
秋のチカ釣りも人気があるが、昨年は
チカの群れが全く出現しなかった。
なぜだかわからない。

昭和55年には水産学部同窓生の集ま
りである三水会が発足した。翌昭和56
年には松浦先生が北里大学学長になら
れた。昭和58年には水産学部の広報誌
である「水産学部だより」が発刊され
た。平成3年10月には日本水産学会秋
季大会開催を水産学部が担当した。全
国から937名の学会員が三陸キャン
パスに集合し、386題の研究発表と
2件のシンポジウムが開催された。三
陸町中央公民館で行われた会員交歓会
は、町を挙げての歓迎ぶりで大好評で
あった。翌平成4年には待望のマリン
ホール（1階は屋内水槽室、2階は講
義室、3階は学生食堂と学生ホールと
売店のある3階建て）が完成した。平
成12年に水産学部は学部改組し、2学
科制から水産生物科学科の1学科制に
移行した。平成16年度に同学科教育プ

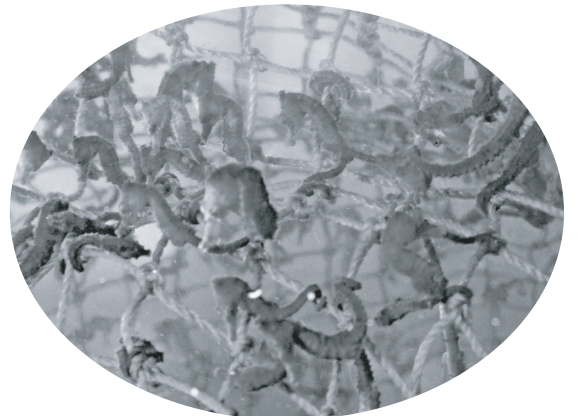
ログラムは日本技術者教育認定機構（J
ABEE）による厳正な審査を受けた。
私立大学では初めてその認定を受けた。
平成20年には学部名称を海洋生命科学
部に変更した。平成21年3月には4階
建ての学生実験棟が完成する。

外部環境の変化としては、昭和57年
に東北新幹線が開業し、昭和59年に三
陸鉄道が民営化され、平成11年に三陸
縦貫自動車道の大船渡IC―新三陸ト
ンネル間が開通した。また平成13年
三陸町は大船渡市と合併し、新生大船
渡市になった。

以上振り返ると、33年間にさまざま
なことがあったが、この間に当初の教
授たちは全員定年退職され、助教授た
ちも教授に昇任後に次々と定年退職さ
れ、当初最も若い助教授だった児玉先
生や私もいよいよ定年を迎えた。この
4年間で9人の教授が定年退職するこ
とになるが、代わりに次々と優秀な若
い先生方が着任している。問題は少子
化である。受験生の確保が一番の難題
であり、教員総出で出前講義なども行
い、学部広報に努めている。困難な状
況であるが、今後も緒方学部長の下で
全員一致団結し、ユニークな教育と研
究を継続してくれることを願っている。

「九州地区親睦会に参加して」
FA19期 加藤 紳

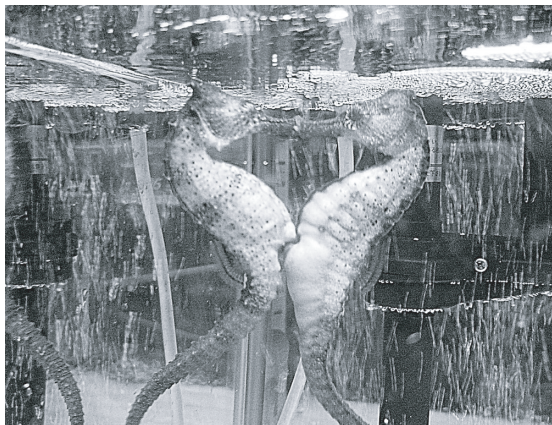
寒冷の候、皆様いかがお過ごしでし
ょうか。去る平成20年11月8日に鹿児
島県で開催された三水会九州地区親睦
会に参加致しましたので、私の近況を
兼ねてご報告させていただきます。親睦会
には九州各地から15名の会員が参加し、
来賓に長野県より小林正典名誉教授、
山梨県より長谷川一敏三水会長にお越
し頂き、会長による乾杯の音頭のもと
午後7時より宴がスタートしました。
昨年、篤姫ブームに沸いた鹿児島とい
えば黒豚です。県下最大の繁華街天文



クロウミウマの稚魚

館にある黒豚料理店「あぢもり」で美
味な黒豚鍋料理を囲みましたが、学生時
代は専ら日本酒と麦焼酎でしたが、郷
に入っては……というところで芋焼酎の
空ボトルが次々と並んでいきました。
楽しい話題は尽きることなく、南国で
の開催で場所とお酒が違えども、三陸
生活時代に浸れる空間はいつもながら
温かくなんとも気持を和ませてくれる
ものです。

もともと私は埼玉県出身ですが、大
学卒業後9年間お世話になった東京の
海洋コンサルタンツ会社を退職後、現
在は鹿児島県南九州市穎娃（えい）町
にて世界的にも例の少ない「タツノオ
トシゴ類」の養殖事業に取り組んでい
ます。タツノオトシゴの管理上理想的
な養殖環境を探した末に鹿児島にやっ
て来たわけですが、人生初めての土地
で右往左往しているときにいち早くご
助力を頂いたのが三水会鹿児島支部の
諸先輩方でした。人脈作りや学術情報
のご提供など、鹿児島に来て4年以上
経ちますが今日もお世話になり通しで
す。それまでの親交といえば同級生が



クロウミウマの産卵

主でしたが、卒業生の縦の繋がりの心
強さを実感しています。しかしながら
今回の九州地区会員総数当たりの親睦
会参加者数は岩手県の鮭の回帰率を幾
分上回るものの低調気味にありました
ので、今後はさらに多くの方々とお会
いできることを楽しみにしております。
さて養殖業で避けて通れないものが
魚病の問題です。十分な研究知見のな
いタツノオトシゴ類においては対応困
難な状況もやっけてきます。経験未熟な
私などは頭の中が対症療法のことにと
配されがちになってしまおうのですが、
親睦会では小林先生に「良い水・良い
エサ・適正密度」が健康な魚を育むと
お話を頂きました。なるほど確かに私
自身も都市部から田舎町への移住後、
体調は大変良好です。基本に返って魚
と接していこうと先生のお言葉を胸に
刻みつつ、水産放浪歌の大合唱で親睦
会一次会を閉じました。もちろん最
終的な解散が翌日未明であったことは
いうまでもありません。
末筆ながら海洋生命科学部として学
部の新たな発展と皆様のご多幸をお
祈り申し上げます。

「佐藤實先生還暦祝い&菅野先生
教授昇任祝い」

H13年度卒業 安達真人 (27回生)

平成20年10月25日(土)に東京タワーのすぐ隣にある東京プリンスホテルにて佐藤實先生の還暦祝いと菅野先生の教授昇任祝いを兼ねた食品化学研究室同窓会が開催されました。水産食品化学研究所の元教授である佐藤美和先生は所用のため、私もお世話になった長久先生は日程に都合がつかず残念ながら欠席とのことでしたが、1回生から33回生までの同窓生が出席していました。私も卒業してから早くも7年近くの月日が経ち、三陸での生活がなつかしい今日の頃です。

まずKUランフオート会会長である1回生の伊藤さんのあいさつで幕をきりました。水産学会で佐藤先生や菅野先生が東京にいらっしゃるとの事で、それに合わせて急きよ開催が決まったようで、急な話で申し訳ないとの説明があり、次に2回生の鈴木さんによる還暦祝い&教授昇任をお祝いする乾杯の音頭へと続いていきました。その後はしばらく三陸での思い出話で大いに盛り上がり、久しぶ

りに私の同期や年の近い先輩・後輩と会って、現在の近況などについて情報交換しました。そうこうしているうちに2時間という限られた時間はあっという間に過ぎていきました。

佐藤實先生に花束贈呈が行われ、還暦なので「赤いちゃんちゃんこ」と思いきや、代わりに「赤いバラの花束」が贈呈され、現在赴任中の東北大学での近況について報告がありました。続いて私の卒論を直接指導していただいた菅野先生には実りのブーケが贈呈されました。実りある研究成果があげられますようにとの意味が込められていると説明がありました。菅野先生からは現在の三陸キャンパスの現状や海洋生命学部への名称変更などについて説明があり、実験新棟が建設中との報告がありました。

その後、抜き打ちで選ばれた同窓生数名から近況についてスピーチがあり、私も急きよスピーチさせていただき、大学時代のエピソードや近況について報告しました。この会のいいところは1回生から33回生までの幅広い年代の諸先輩・後輩の皆さんと、世代を超えて気軽にお話しできることにあると思います。三陸での思い出話して盛り上がった時は気分が学生時代に戻った感じがします。

最後になりましたが、このたびは佐藤實先生還暦おめでとうございます。また、菅野先生教授昇任おめでとうございます。今後ともご健康に留意され、両先生ともますますの御活躍を遂げられますようお祈り申し上げます。

KUランフオート会を開催するにあたり、ご尽力いただいた先生方、6回生の飯塚さんをはじめとする(株)アトラスの皆様、また、三水会より補助金をいただきましたことについて、この場を借りて御礼申し上げます。



平野先生の「傘寿のお祝い」

前北里大学水産学部長の平野禮次郎先生が、このたび傘寿を迎えられました。

先生の今後のますますのご健康を願う意味で、平成20年10月24日（金曜日）午後1時半より、東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷（私学会館）にて、東京大学と北里大学の門下生、ご友人によるお



祝いの会を開催しました。

北里大学からは、小河先生、加戸先生をはじめ、卒業生の上村、山本宇宙、山本耕成、正田、前田、村山が参加しました。会全体で50名を超える参加者があり、東京大学、北里大学在職中、そして退任後のご活躍の写真を門下生が解説しスライド上映するなど、盛況のうち閉会となりました。

就職ガイダンスに参加して

水産増殖学科5期（昭和55年卒業）

三宝食品株式会社取締役部長

小山 泰治



早いものでもう年の瀬、ガイダンスに講師として参

加させていただきます。二ヶ月が経ちました。

今でこそどうにか一人前の顔をしているものの、ちょうど三十年前の自分と同じ歳の学生に偉そうなことを言える立場じゃないことは百も承知で引き受けました。かといってどんなことを言えばいいのか悩み考えた挙句当時の自分

がいかにダメな奴で、今人生の黄昏時になるまでどんなことをしてきたかを、言うなれば人生をどうつまずいて、どう立ち上がったかを話すことにしたのです。

最初の就職は下宿の先輩の紹介で山梨の養殖場に行つたのですが、実は当時つきあっていた彼女が東京にいて周囲が反対するのも聞かずに就職したのですが、バチが当たつたのか親父が倒れ、帰省せざるを得なくなつたのがそもそものつまずきの第一歩でした（というよりもオネーチャンにイカレやすい自分が問題）。

次の就職は同級生だつた今は亡き大坪君の父親が組合長を務める岩手県の内水面養殖組合でお世話になりました。ここで一年働きの魚の加工と販売を学びました。かつての私は物を売るなどまったくダメで、高校時代は頼まれたコンサートの切符を一枚も売ることが出来ず、しかたなくバイトをして自分でカネを払つたという暗い過去まであったのですが、そのトラウマを振り切ることが出来ました。さて次は、その組合が取引をしていた秋田の中央市場を紹介していただき、魚卵課に配属されタラコの販売担当となつたのがきっかけでその後太平洋産業にもお世話になりましたが、両社で北朝鮮のタ

ラコ事業に参加し、5シーズン、のべ一年以上滞在し、現地で朝鮮人に間違われました。

私の地元秋田と言えばハタハタですが、当時県内産は乱獲による資源の枯渇でほとんどが北朝鮮からの輸入でした。そんなこともあって望まれて転職したのが現在の三宝食品だつたわけなのです。で、ここでもタラコ作りを始め二十一年近くになりますが、一昨年私の開発した新製法が評価され水産庁長官賞を受賞いたしました。さらに地域資源を活用した製品がいろんな形で評価をうけています。

路頭に迷う時、いつも誰かが助けてくれました。今となりにいる友達をたいせつにすること。そのことを最後に伝えて講演を終えました。

新製品

秋田醸造 白神の雪しろ鱧
白神山地からの雪解け水が海に流出する米代川河口で漁獲した桜鱧を秋田の伝統発酵調味料（しよつ）

る、純米酒、甘酒等）で漬付け込み熟成させた。



「第三回潜水部OB会の集い」に出席して

FA17期 高城 豊

2008年10月4日(土)「蔵の桜 銀座ナイン店」にて、第三回潜水部OB会の集いが行われました。卒業して17年が経ち、その間は潜水部同期の結婚式で同期の友人と顔を合せた事がある程度で、OB会の集いに出席するのは初め



てのことでした。井田先生のお顔を拝見するのも大学在学時以来で、当時に比べてだいぶ白髪が目立つようにお見受けされ、時がずいぶん流れたことを実感しました。私の同期や現役時の先輩や後輩の姿はありませんでしたが、初めて会った先輩方に当時の練習や合宿の様子についての話を聞き、今年の4月に卒業したばかりの後輩には、大船渡や崎浜、浦浜の町の様子や今の潜水部ではすぐにレギュレーターやタンクを着けて潜っているのと聞いて、私の現役時代2年生の7月まではひたすら表面遊泳やシユノーケリングの練習を徹底的に行い、基本が身に付いてからその後をやっとレギュレーターやタンクを付けて潜ったことを思い出し、ずいぶん変わったものだと感じました。

2次会は近くの居酒屋に移動し、半数以上の方が参加していました。その頃には皆さんだいぶ打ち解けて、様々な話題で盛り上がりつつありました。集いが始まってからあつという間に4時間以上経ち、10時過ぎに散会となりました。最近の仕事上の付き合いばかりになっていた私にとって、このOB会の集いは久しぶりにリフレッシュすることのできた貴重な時間となりました。

第36回漁火祭実行委員会

副委員長 栗栖 亮

この度、平成20年10月11日(土)・12日(日)に、北里大学海洋生命科学部において第36回漁火祭が開催されました。

第36回漁火祭では、「さらば水産学部」(そして新たに生まれ変われ)をテーマに、実行委員70人で4月から奔走してまいりました。北里大学水産学部は平成20年4月より学部名が海洋生命科学部に変更、水産学部での漁火祭は今年が最後になることからこのようなテーマにいたしました。今年は天候が当日の朝まで危ぶまれ、また初日には強風といった予期せぬできごともありましたが、昨年同様「マグロの解体ショー」をメイン企画とし、大変多くのお客様にご



来場いただき大いに盛り上がりました。この漁火祭を開催するに至って、学生生活で何かに奮闘する楽しさ、



皆が一丸となることの難しさ、また今回で36回目となる漁火祭の伝統を受け継ぐことの大切さを実行委員一同感じ取れたのではないでしょうか。

第36回漁火祭実行委員、共に漁火祭を盛り上げてくれた学生、ご来場いただいたお客様それぞれが円満具足となれたのも三水会様の寛大なるご協力の賜物です。末筆ながら、第36回漁火祭実行委員会を代表して心より御礼申し上げます。また三水会様には、学部名が変わろうとも伝統は変わらない漁火祭の更なる躍進のために、今後とも一層のご高配を賜りたく重ねてお願い申し上げます。

「水産学部卒業30年の集い」—ご案内のお知らせ—

発起人代表：1期 玉置研二

拝啓 北里大学水産学部卒業生の皆様におかれましては、益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。

我が水産学部が設置されたのは昭和47年であり、同51年春に一期生が三陸の地を巣立って以来、早くも30年以上が経過いたしました。今年は3期生が卒業後30年目の節目を迎えます。この間幾多のご苦勞を乗り越えてこられたことと拝察いたしますが、昨年4月には、学部名称が水産学部から海洋生命科学部に変更となり、今更ながら月日の流れが感じられます。

さて、この度、卒業30年を経過した、1期生、2期生、3期生を対象としました親睦会を、当時の教職員方々を交え下記にて開催することを企画いたしましたのでお知らせいたします。幹事一同、皆様のご参加を、心よりお待ちしております。当日「東京オペラシティ54階」東天紅にて再会できることを大いに期待しております。是非、ご夫婦でご参加下さい。

幹事：1期 其阿彌善嗣・石川義行 2期 横堀昌道・田代茂年 3期 野十美雄・佐藤敏行

敬具

記

開催日時：平成21年3月28日（土） 午後6時（受付5時30分）

開催場所：東京西新宿「東京オペラシティ54階」東天紅（フォルトナール）

住所：東京都新宿区西新宿3-20-2 TEL：03-5388-1015

会費：1人一万円（当日お支払い下さい）

（尚、ご夫婦で参加される場合一方が会員でなくとも、又、会員ご夫婦の場合でも、2名で一万円となります）

申込方法：三水会事務局まで電話・FAX又はE-mailでお知らせ願います。

TEL・FAX 0120-873135

E-mail：information@kitasato-sansuikai.jp

締切：平成21年3月22日（日）

以上

三陸校舎へネットワークカメラを設置しました

皆さんは、ネットワークカメラをご存知ですか。ネットワークカメラは、インターネットを通じてパソコンのブラウザの中に、カメラで捉えた映像を表示します。

北里大学同窓会では、北里大学の各校舎にインターネットカメラの設置を進めており、その第1号として、三陸校舎（海洋生命科学部）F3の屋上に、ネットワークカメラを設置し、動画配信を開始しました。

ネットワークカメラへのアクセス方法は、2種類あります。
・北里大学同窓会のHPからアクセス
（<http://www.kitasato-dousoukai.jp/>）
・三水会のHPからアクセス
（<http://kitasato-sansuikai.jp/>）

行きたくても、なかなか訪問することができない三陸校舎を、パソコンの中ではありますがぜひご覧ください。



三水会ホームページのお知らせ



三水会ホームページでは、サイトの管理、運営。掲載内容のガイドラインを「サイトポリシー」として、提示しています。

正確かつ中立な運営を心がける上での注意点、利用規約となっております。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

また、今年度より、本学同窓会により、三陸校舎の様子をネットワークカメラで公開する準備を進めています。

公開後は、当ホームページのトップページにて静止画像（10分に1カット）を、リンク画面により、動画映像を楽しむことができます。

公開次第、作業いたしますので、今しばらくお待ちください。

より良い運営をするため試行錯誤してまいりますので、今後ともご意見、ご協力をお願いいたします。

見たい・知りたい・話したい

■山森先生退職記念パーティーのお知らせ

魚類生理学研究室・山森邦夫教授は、今春3月に定年をむかえられます。これまでの山森先生への感謝の気持ちを表すとともに、先生の新たな門出を祝福するために退職記念パーティーを開催いたします。お誘い合わせの上、奮ってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。なお、他研究室の卒業生の方々、教職員の方々の参加も歓迎いたします。

日 時：平成21年4月12日（日） 13：30～15：30

場 所：東京 学士会館（地下鉄神保町駅下車すぐ）

会 費：一万円

3月15日までに、参加あるいは不参加につきまして、1) 御氏名、2) 卒業年度、3) 連絡先住所、電話番号、メールアドレスと合わせまして、okumura@kitasato-u.ac.jp（奥村誠一）までお送りください。電子メールを使用できる環境にない方は、ファックス0192-44-1904（天野勝文）でお知らせください。

■平成21年度三水会定期総会のご案内

下記により、平成21年度三水会定期総会を開催いたします。

役員、代議員はもとより、一般会員も傍聴できます。

開催日時：平成21年5月16日（土）午後6時～7時

開催場所：北里大学白金キャンパス 3号館 8階 3802教室

議 事：①平成20年度事業報告、収支決算 ②平成21年度事業計画、収支予算
③第11期役員、代議員の選任 ④その他

■「第11期三水会代議員の改選について」一代議員推薦のお願いー

前回の改選から3年近くが経ち、平成21年度総会において代議員、役員が改選が行われます。つきましては代議員の推薦（自薦、他薦）を、下記により受け付けいたします。

記

〈会員氏名、卒業年、学科、卒業講座名、現住所、電話番号〉記載

一他薦の場合は、推薦者名を記入一

F A XまたはE-mailにて、事務局宛にお送り下さい。

代議員 資格：三水会正会員（水産学部卒業生）

推薦受付期間：平成21年3月末日

三水会事務局：TEL&FAX：0120-873135 E-mail：information@kitasato-sansuikai.jp

■水産生物化学研究室同窓会・児玉正昭先生退職記念パーティーのご案内

水産生物化学研究室同窓会・児玉正昭先生退職記念パーティーを下記の日程で開催いたします。多くの方々にご出席いただきますようご案内申し上げます。

開催日時：2009年5月23日（土） 受付開始17：30、開会18：00～21：00

会 場：（未定）東京 山手線沿線圏内

*~~会場~~の詳細については決定しだい三水会ホームページに掲載します。

会 費：10,000円

参加申込み方法：下記連絡先のメールアドレス、F A X等で受け付けています。詳細は参加申込案内を北里大学同窓会に登録されている住所へ郵送していますので、ご覧ください。三水会ホームページのイベントにも参加申込み方法を掲載しています。

<http://kitasato-sansuikai.jp/ivento.html>

連 絡 先：不明な点等ありましたら seika-ob@kitasato-u.ac.jp またはFAX 03-6313-6853水産生物化学研究室同窓会事務局(高田(栗栖)義宜)までご連絡ください。

(坂本節子14FF)

編集後記

大地震に驚き、大不況におののいて暮れた2008年。2009年は平穏で明るい年になることを心より祈るばかりです。年月を重ねることは本人の意思にかかわらず色々な経験を積み重ねることになるようです。この経験を生かせるか、楽しめるか、今、試されているように感じております。

三水会も発足して29年を迎え、それぞれに三陸での経験を振り返ってみるのも良いかもしれません。『卒後30年の集い』が今年3月に開催されることになりました。対象となる会員の皆様には奮ってご参加いただき、新たな三水会の活力となっていきたいと思います。